

今後の多摩・島しょ地域の振興について

1 これまでの主な実績

○ 多摩・島しょ振興の推進

(多摩地域)

その時々¹の社会経済状況や都の長期的方針等を踏まえ、節目節目で計画を策定し、振興策を推進

※ 現在は、「新たな多摩のビジョン」(H25)に基づき推進

(島しょ地域)

「東京都離島振興計画」(H25)及び「小笠原諸島振興開発計画」(H26)に基づき、振興策を推進

※ それぞれ離島振興法、小笠原諸島振興開発特別措置法に基づく計画

○ 市町村に対する財政支援

厳しい市町村財政の状況を踏まえ、「市町村総合交付金」により、市町村が実施する各種施策に要する一般財源の不足を補完

※ 平成28年度予算 490億円

安全・安心

総合的な医療の充実や防災力の向上

(多摩) ・多摩総合医療センター・小児総合医療センターの開設
(H22.3)

・周産期・小児医療体制の充実

✓ 母体救命対応総合周産期母子医療センターの指定

✓ こども救命センターの指定

・航空消防救助機動部隊(エアハイパーレスキュー)の創設(H28.1)

・河川護岸整備の推進(空堀川、鶴見川、川口川など)



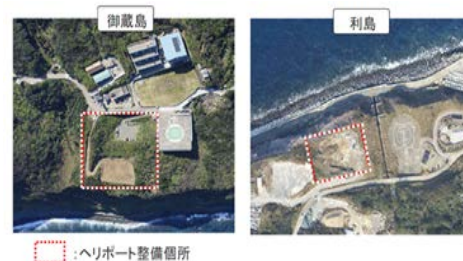
多摩総合医療センター
小児総合医療センター

(島しょ) ・津波浸水ハザードマップ基本図、都津波避難計画策定指針の作成・提供

・都と島しょ町村合同の総合防災訓練実施
(H28.11 大島町・利島村)

・津波避難施設、海岸保全施設、砂防事業等の整備促進

・御蔵島村、利島村ヘリポート整備の技術支援



ヘリポート整備箇所

御蔵島村、利島村ヘリポート

都市基盤

道路・交通ネットワークの整備・充実や港湾、航路の整備

- (多摩) ・道路ネットワークの整備
- ✓ 府中清瀬線の全線開通 (H25. 3)
 - ✓ 調布保谷線の全線開通 (H27. 8)
 - ✓ 多摩川南岸道路城山工区の交通開放 (H27. 5)
- ・連続立体交差事業の推進
- ✓ JR南武線 (稲田堤駅～府中本町駅間)
 - ✓ 京王線・相模原線 (調布駅付近)
- ・東八道路等における無電柱化の推進



調布保谷線 (西東京 3・2・6)

- (島しょ) ・港湾整備 (防波堤、岸壁等の整備を推進)
- ・航路整備 (新船導入)
- ✓ H26 あおがしま丸、橘丸、フェリーあぜりあ
 - ✓ H28 おがさわら丸、ははじま丸
- ・調布飛行場の定期便への計器飛行方式導入 (H25. 6)
- ・インターネット等の利用環境改善 (H28 神津島、御蔵島 H29以降 新島、式根島、利島、青ヶ島)



新おがさわら丸

産業・観光

地域資源を活かした産業の活性化

- (多摩) ・産業サポートスクエア・TAMAの開設 (H22. 2)
- ・「広域多摩イノベーションプラットフォーム」の構築
- ・チャレンジ農業支援センターの開設 (H25. 5)
- ・多摩産材情報センターの開設 (H26. 6)
- ・Web サイト「tokyo reporter 島旅&山旅」の公開 (島しょ共通)



産業サポートスクエア・TAMA

- (島しょ) ・農道や漁港などの施設整備・改良
- ・八丈フルーツレモンや小笠原パッションフルーツなどの特産品開発
- ・観光ポータルサイトの整備や大手宿泊予約サイトの活用、SNSユーザ等による情報発信



八丈フルーツレモンと
小笠原パッションフルーツ

東京2020大会を見据えたスポーツ・文化施策の推進、伝統文化の保護・育成

- (多摩) ・武蔵野の森総合スポーツ施設(仮称)の整備推進
・東京2020大会の成功に向けた市町村支援の充実
(島しょ共通)
・都立多摩図書館の国分寺への移転改築
(H29.1 開館予定)
・特設ホームページやSNS、TV番組などを活用
した多摩地域の多様な魅力の発信
- (島しょ) ・島しょ住民に対して、希望に応じて演劇、音楽、
寄席等の公演を実施
・伊豆諸島ウォークの実施
(H25 八丈島、H26 大島、H27 三宅島、H28 新島)
・南洋踊りや小笠原太鼓などの小笠原諸島特有の
文化を学校教育や地域イベントで採用



武蔵野の森総合スポーツ施設
全体イメージパース



伊豆諸島ウォーク

豊かな自然環境の保全と活用

- (多摩) ・都立公園の整備
(神代植物公園、野山北・六道山公園、東伏見
公園など)
・自然公園内の施設の改修(島しょ共通)
(高尾ビジターセンター、父島海岸線歩道の
改修など)
・多摩川水源森林隊の協力による間伐・枝打ちの実施
・とうきょう林業サポート隊の創設(H27.10)
- (島しょ) ・御蔵島でエコ・ツーリズムを実施し、自然環境保全
と利用の両立を推進
・利島の椿害虫であるエダシャク対策、大島のキョン
対策、父島におけるノヤギ対策の実施
・八丈島における地熱等再生可能エネルギー利用拡大
に向けた検討
・世界自然遺産である小笠原諸島における、外来種
対策の実施



多摩川水源森林隊による
間伐作業



八丈島地熱発電所

2 多摩・島しょを取り巻く状況

- 西多摩地域や島しょ地域を中心に、人口減少、少子高齢化が進展
⇒ 持続可能なまちづくりの必要性
〔 ・人口増減率（H18～H28）：都 9.5%増、西多摩 0.5%減、島しょ 8.6%減
・高齢化率（H28.1 現在）：都 22.4%、西多摩 26.9%、島しょ 33.5% 〕
- 多摩地域では、区部ほど公共交通網が充実しておらず、交通不便地域も存在
⇒ 交通網などのインフラ整備に加え、高齢化の進展により、買い物や通院など地域の“足”の確保が大きな課題
〔 ・JR 青梅線及び五日市線の運行本数が減便（H27.3 改正及び H28.3 改正）
・都市計画道路の完成率（H26 年度末現在）：多摩 59.7%、都 62.6% 〕
また、近年、大規模工場の撤退が相次いでおり、大学も都心回帰傾向
⇒ 地域活性化策（産業振興や市街地の活性化など）も重要な課題
- 島しょ地域では、農業や漁業、観光といった基幹産業の振興が課題、また、生活環境における本土との格差も課題

- 2020 年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、そのレガシーの活用も含めると、観光をはじめ地域活性化に向けた大きなチャンス
- 近年の目覚ましい技術革新（イノベーション）の動きは、将来的な企業の収益力や生産性の向上、都民の生活の質の向上に大きく寄与することが期待
- 「ゆとり」や「質」を重視する生活や、モノを持たずにシェア・レンタルする生活など、今後、人々のライフスタイルや価値観の多様化の進展が予測

3 今後の方向性

将来の社会情勢の変化も見据えながら、それぞれの地域特性や課題を踏まえた多摩・島しょの振興策を講じていく

（多 摩）

「2020 年に向けた実行プラン（仮称）」や、「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」の検討とも整合を図りながら、長期の視点に立った新たな振興策を平成 29 年に策定予定

（島 しょ）

「東京都離島振興計画」、「小笠原諸島振興開発計画」に基づき、引き続き、定住促進と持続的発展に向けた振興策を推進